

平成31年2月15日(金) No.434



からだを鍛え 心を磨く いつも仲間とともに 夢のある学校

# 里中だより

川口市立里中学校  
川口市里621番地  
Tel 048-282-5708  
さわやか相談室 284-1010  
1年175名 2年179名 3年156名  
<http://www.sato-chu.com/>

## 「自分で考える」

校長 高田 晶子

立春が過ぎ、春の気配を心待ちにする季節となりました。  
そのような中、3年生は入試本番を迎え健康管理や日々の生活を引き締め、追い込みをかけているようです。

1, 2年生も校外学習や小中交流会など、学年の行事に一生懸命取り組む姿から、一年間の大きな成長を感じました。



安野光雄著「かんがえる子ども」にこのような一節がありました。

### 「自分で考えなくなっていること」

この頃の天気予報は、「雨になるおそれがあるので、傘を持ってお出かけになる方がいいでしょう」などと、天気予報以外のこともいいます。

天気予報は雨、晴れの情報だけでいいのに、「服を一枚持ってでかけましょう」といったりします。サービスのつもりでいっているのだと思いますが、これは、ほんとうは自分で考えることです。

予報士に最後に言われた、「一枚多めに着ていきましょう」という言葉がテレビを見ている人の頭に残って、そのとおりにしたら「暑かった」なんていうことがあると、文句をいったりします。でも、余計に着ていこうといくまいと、それはこちらの責任です。

そもそも「予報」なんですから、ほんとうのことはわからない、という大前提があります。

テレビを見ても、聞いても、自分で考えるという姿勢が大切です。

日常にあることでも、自分で考えなくても生活ができる環境にあるわけです。確かに私も「今日の天気予報は何て言っていたかしら？」と家族に聞くことがあります。予報を見て、自分で考えて準備すればいいだけのことで、生活の中に考える練習の場がたくさんあります。子どもたちにも考えようとする環境設定をもっと大切にしなければいけないのだと感じました。

今年は、里中学校の生徒の皆さんに、ことあるごとに「やってみよう」「考えてみよう」と一年間投げかけてきました。学校生活の中で、「考えてみよう」を実践し、振り返りを大切にして取り組みました。三年生との面談や子どもたちとの会話、そして教室の掲示物の言葉の中から感じ取ることができます。そのようなことを実践しながら、本当に「自分で考える」力をつけてほしいと思うこの頃です。ご家庭ではいかがでしょうか。